

第9回東京藝術大学特別講義（DOOR）受講感想【一部】

天草市立本渡看護専門学校

2年生 令和6年2月22日（木）3限目、4限目

1年生 令和6年2月27日（火）1限目、2限目

演題	ケア原論②
講師	<p>飯田 大輔（いいだ だいすけ）氏 1978年千葉県生まれ。 東京農業大学農学部卒業。日本社会事業学校研究科修了。千葉大学看護学部中途退学。 千葉大学大学院人文社会科学研究所博士前期課程修了（学術修士） 「クリエイティブなケア実践の時代へ」（週刊社会保障 2014年6月30日号、法研） 2001年、社会福祉法人福祉楽団を設立し、特別養護老人ホームの生活相談員、施設長などを経て、現在、理事長。 2012年、株式会社恋する豚研究所を設立、現在、代表取締役。 現在、千葉大学非常勤講師、ナイチンゲール看護研究所研究員。 介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士。</p>

2年 ①

私は今回の講義を聞いて「観察」とは人に関心がないとできないという言葉が印象的でした。看護を行う上でも様々な場面で対象の観察を行うが、関心を持って臨んでいたのか考えさせられました。看護師になる上で、早期発見や回復に向かうためには周りが見れて援助が的確な人が求められてくると思った。また、飯田さんが援助されていることを聞いて感銘を受けました。少年院に収容していた人や精神疾患を持つ人の支援を行っていましたが、取得支援や生活についても支援していることが分かりました。経歴重視ではない考え方や、改善策を模索している部分から自分もインプットしたいと強く思いました。

2年 ②

人に対する関心がなければ観察はできないという言葉に対し、確かになと思った。対象に対し、この人はどんなことを思っているのか、何をしてほしいのかなどの関心がなければ、何も気づくことができないと考える。今後、実習を行う際は、しないといけなからやるのではなく、対象に関心を持ち、自らで対象の変化に気付くように観察していこうと思った。また、「何かすることありますか？」「手伝うことはありますか？」と聞いてしまうことがある。その質問をすることによって、聞かれた側が苦勞してしまうことが分かった。そのため、聞く前に気付いて先に動けるようになる必要があるなと思った。観察ができるようになると段取りが上手くできるようになり、先手の介護を行えるようになるというところに共感した。効率よく自分の仕事とケアが正確に提供するためには、観察し、先に行動する必要がある。訴えがあってから動いていると、全ての業務が遅れてしまう可能性があるため、観察し、先手を読むことが大切だと分かった。

1年 ①

今まで何も考えずに他人の変化に気付いていたけど、それは“相手への関心がある”ということだと分かった。また、外来やファミリーレストランでは、必要とされる情報は対象が主体的に提供してくれるが、介護では観察によりニーズを考える必要があり、「観察力」は不可欠だと感じた。講義の中で「できる看護師は、どうしてほしいか、どう感じているかを聞かない」それは、日常的に観察ができていからだと知り、とても納得した。コミュニケーションを目的とした声かけは、対象の消耗につながるため、ケア時にコミュニケーションをとることが大切である。今日の講義で「観察」の大切さ、「コミュニケーション」のタイミングなど、相手のことを考えて気付かれないような気づかい、支援が必要だと学ぶことができた。

1年 ②

今回の講義では、ケアには観察が必要不可欠なものであるということを改めて学ぶことができました。対象に対して関心を持ち、情報収集を行い、生活の場の在り方で対象が苦痛を感じないようにするために観察を行い、そこからケアを行っていくことが大切であるということが分かりました。ケアをしていく中で、ケアする側はケアされる人の代行者として、訴えの本当の意味を観察によって導き出し、最適なケアを行わなければならないということを知りました。私も実習で、コミュニケーションを用いながらその人を観察し、本人の生命力を消耗しないように関わりながらよりよいケアを提供できるようもっと観察力を身に付けていきたいと思いました。話の中にあっという間にその人の顔・声・態度から変化を読み取りながら観察を行っていき徐々に観察力を磨き、個別性に合ったケアを提供していきたいです。飯田さんは、障がいのある人やなんらかの理由で働いていない人が働く場所を作ったり、老人ホームの中に様々な施設を融合させ地域の人が行き来する場所を作られていて、地域に密着し、全ての人が暮らしやすくなるような事業をされていて素晴らしいと感じました。

看護師として働く上で、どうしたらその人がその人らしく暮らせるのかを考えてケアを提供していくことが、治療意欲を向上させたり、その人らしく生き生きと生活したりすることに繋がると飯田さんのお話を聞いて改めて思いました。今回の講義を今後活かしていき、よりよいケアを提供できるよう自分の知識や技術を増やしていきたいです。